

# スロープ（傾斜路）

## ■スロープの現状の問題点 1

スロープの案内表示	2階スロープ表記見づらい 「スロープや階段があります」という表示が無い スロープ表示が無い。行ったり来たりしなくては行けない ホール内のスロープの案内表示が見えづらい 目線よりもかなり高い。矢印もうすい スロープ案内がわからない。 スロープの案内の高さ、矢印見えにくい
-----------	--



### <短期的な解決の方向性>

- スロープ表記が無い場所を点検し、設置が無い場所については案内表示を設置する。その際に、利用ユーザー（特に車椅子ユーザー）の利用動線上、目線にあった場所に設置する
- 案内の表記をしている場所も利用ユーザー（特に車椅子ユーザー）の利用動線上、目線にあった場所に設置がされているのか、物陰等に隠れ見えないなど無いか確認をする

## ■スロープの現状の問題点 2

スロープ利用時の注意	スロープ。ベビーカーなどとすれ違いが嫌（出来ない）（人が通る時は誘導で見 てあげた方がいい） スロープの登り下り同時にならないような誘導づくり スロープ補助員 急いでいる時に一人では利用しづらい
------------	---



### <短期的な解決の方向性>

- イベント時はスロープ付近にサポート出来るスタッフを配置する
- スロープの補助だけでなく、混雑緩和の誘導等も行う
- イベントの開始時、終了時など利用が増えるタイミングを考慮したスタッフ配置をする

## ■スロープの現状の問題点 3

スロープの設計	ホールのスロープ幅が狭い 坂は休めるところがないと 演劇ホールのスロープですれ違いが出来ない 演劇1階スロープ少し急 ホール内スロープ（傾斜が強い） 傾斜の角度によっては車椅子きつい 目的地までの傾斜が気になる
---------	---

## ■スロープの現状の問題点 4

スロープの設置位置	坂上がったところのテーブル 下りカーペット。車椅子が滑って止めるのが難しい
-----------	--

# スロープ（傾斜路）



## <短期的な解決の方向性>

- スロープを利用する際の導線上に障害物がないように点検する。障害物がある場合は移動をする
- 傾斜がきついスロープの場合はスロープ付近に補助が出来るスタッフを配置する

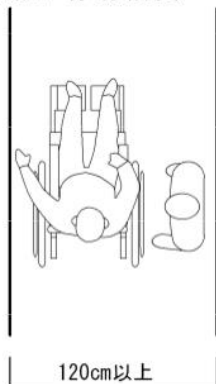
## <中長期的な解決の方向性>

- 多くの利用者に使用してもらうために改善・改修を検討する
- 改善・改修をする際は設計基準に基づき、できる限り主要な敷地内の通路に併設して設け、最短経路を確保すること

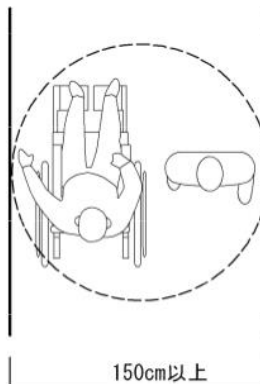
## （敷地内の通路の設計基準）

- ①勾配
  - 1/12以下とする
  - 段の高さが16cm以下の場合は、1/8以下とすることができる。（1/12以下としない場合には、手すりを設ける必要がある）
  - 屋外においては、雨天時等を考慮して1/15以下が望ましい
  - 1/20以下の場合には、上端に点状ブロック等、踊り場、手すりを敷設することを要しない
- ②有効幅員
  - 原則として120cm(平行して階段が設けられている場合は、90cm)以上とする
  - 車いす使用者等の円滑な移動を考慮すると180cm(平行して階段が設けられている場合は、120cm)以上が望ましい
- ③仕上げ
  - 仕上げの材料
  - ノンスリップ加工を施す等、濡れても滑りにくい材料・仕上げとする
  - 傾斜路の上端・下端または傾斜路全体を、色彩、色相または明度の差、輝度比等が確保された材料で仕上げる

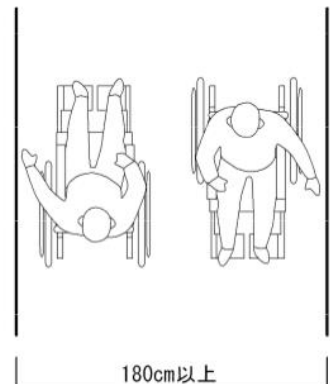
### ○ 敷地内の通路の有効幅員



a. 車いす使用者と横向きの人がすれ違える寸法



b. 人と車いす使用者がすれ違える寸法  
車いす使用者が回転(360°)できる寸法



c. 車いす使用者同士がすれ違える寸法  
車いす使用者と杖使用者がすれ違える寸法